

講義名	西洋史			授業形態	
担当教員	小野 達哉	開講期・曜日・時限	後期 月曜日 2 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生
				ナンバリング・コード	

主題と概要
ヨーロッパの歴史について、古代から近代にいたるまで概説する。ヨーロッパ文明の起源（古代のギリシャ世界）から講義を始め、19世紀末の近代ヨーロッパ世界までを概観するとともに、当該の時代の中心問題について論じることにする。

到達目標
西洋史の基本的な流れを理解する。 ヨーロッパ文明の多様な在り方を理解する。 欧米世界の発展とグローバル社会の成立との関係を理解する。

提出課題
毎回授業時に小テストを実施する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法
毎回の授業時におこなう小テストで、学生の講義の理解度を確認し、それに必要に応じてコメントを付して返却するつもりである。ただし、受講生の人数が多数に上った場合は、テスト返却が不可能になることを予めお断りしておく。

評価の基準
毎回授業時の平常点と、期末試験の総合評価とする。毎回授業時の課題提出だけでなく、学期末に定期試験を実施するので、その旨注意されたい。

履修にあたっての注意・助言他
この講義は予備知識は必要としないので、その点は安心して受講してくれてよい。それでも、受講に不安を感じている学生は、世界史の教科書か参考書を何か1冊、授業に持参してくるとよい。なお、新型コロナウイルス感染症の状況によりシラバスが修正される可能性がある。

教科書
.使用しない。

参考図書
.なし。

その他
プリントを配布する。 参考文献は授業中に適宜紹介する。

授業計画
1 西洋史とは何か 2 ギリシャ文明 3 ローマ文明1：ローマの台頭 4 ローマ文明2：帝政へ 5 ローマ文明3：キリスト教 6 ローマ文明4：ローマの滅亡 7 ヨーロッパの成立 8 中世ヨーロッパ文明 9 大航海時代 10 ルネサンスと宗教改革 11 絶対王政 12 市民革命の時代 13 産業革命の時代 14 昨日の世界：第一次世界大戦への道 15 まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）			
	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
【第1回～15回】 予習：前回の講義時に示した授業のキーワードを辞書等で調べておく（120分程度） 復習：プリントの見直し、穴埋め内容の確認をする。返却を受けた小テストを解き直す（120分程度）。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
全学対象の教養科目であるため、「流通科学大学の学生が卒業時に共通して身に付けておくべき資質・能力」(1)～(5)の習得を目指す。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
授業は学生に随時発問しながら進めるが、特段ICTを活用することはない。

実務経験の有無及び活用
なし

備考
受講に当たり、予備知識はとくに必要としないが、日本史・アジア史など西洋史に限らず、歴史全般に興味をもってほしい。